

国立天文台博物館（仮称）基本計画案

●前文

国立天文台は、日本の天文学のナショナルセンターであると共に、日本の科学が江戸幕府天文方に代表される暦などの東洋科学から、天体物理学を中心とする西洋科学へ移行してきた歴史遺産を有する希有な研究所である。

2008年4月に発足した天文情報センター・アーカイブ室は、「歴史的価値のある天文学に関する資料（観測機器、測定装置、天体写真類、その他関連資料等）の保存・整理・活用・公開」を目的としてきた。

一方、天文情報センター普及室（当センター発足時には広報普及室）は、定例観望会、三鷹地区の常時公開など様々な普及活動に取り組んできた。

これらの活動を、さらに質的・量的に発展させるため、普及室の施設公開関連活動とアーカイブ室の活動を天文情報センターから独立させ、各観測所における同等の活動を併せて、「国立天文台博物館(仮称)」とすることを目指すものである。

●国立天文台博物館のミッション

- (1)最新の天文学を紹介する公開活動を行う。
- (2)研究に使用された建築物、機器、研究に伴い用いられた物品等（注）を収集し、それらを国立天文台の資産として、整理保存する。
- (3)収蔵品等に関する調査研究を行う。
- (4)これらの天文学関連資料等を、最新の天文学につながるプロセスがわかるよう展示・公開を行う。

注：例 天体写真類、観測野帳、オーラルリストリーなど。

●国立天文台博物館の組織

天文情報センターが中心となって、各観測所を含む博物館組織を新設する。

天文台博物館構想で想定するプラン

天文台博物館 人員		プランS	
		センター新設	
三鷹	教授	1(併任:館長)	
	准教授	1(併任)	
	助教	1(新規)†	† 台内より配分
	研究技師	2(振替2)	
	技師	1(併任)	
	専門研究職員	2(新規)※	※要学芸員資格
	広報普及員	3(振替3)	
	事務支援員	1(新規)	
野辺山・水沢			
	専門研究職員	各1(併任)	

組織の移行	天文台博物館センター
アーカイブ室	天文台博物館センター
普及室	一部博物館センターへ
ユニット室	情報センター
総務室	情報センター
広報、出版、図書室	情報センター
野辺山・水沢	

組織と新規事業計画案	実施項目と年度					組織とその主な対応						
	H25	H26	H27	H28	H29	館長	研究部	資料部	普及部	事務部	野辺山	水沢
天文学的遺物の調査研究							○					
収蔵品カタログ更新								○				
電子版カタログ公開								○				
研究論文の公開							○					
メールマガジンの発行									○			
web版ガイドツアー									○			
案内ボランティア育成									○			
企画展									○			
学芸員実習生受け入れ							○					
英語版収蔵品カタログ								○				
博物館分室を立ち上げ											○	○
						統括	天文学的遺物の研究、調査、展示、運営のプランニング	データベース、リポジトリの構築、収集物の保管・管理	最新情報の発信、展示の更新、催し物の立案・実行	博物館運営に関わる事務		
						要求する職員	副台長	助教 新規1	専門研究職員 新規1	専門研究職員 新規1	事務支援員 新規1	

●国立天文台博物館への経緯

野辺山地区

昭和 57 年（1982 年）

宇宙電波観測所開所以来、構内の常時公開・団体見学受け入れを実施している。

水沢地区

平成 20 年（2008 年）

旧本館を再利用した構内の奥州市立奥州宇宙遊学館を中心に常時公開（火曜日休館）を行い、4次元シアターや観望会（月一回）の他、構内見学の受け入れを開始する。

三鷹地区

平成 8 年（1996 年）

当時の広報普及室を中心として、毎月 2 回の観望会（夜間）を開始する。

平成 10 年（1998 年）

太陽分光写真儀室が、国の登録有形文化財となる。

平成 12 年（2000 年）

三鷹構内の常時公開（昼）を開始する。

平成 14 年（2002 年）

第一赤道儀室、および大赤道儀室が、国の登録有形文化財となる。

平成 15 年（2003 年）

立体視を用いた 3 面の 4 D 2 U シアターの公開を開始する。

平成 19 年（2007 年）

国立天文台三鷹地区に 4 D 2 U ドームシアターの整備を行い、観望会に合わせて毎月 2 回の公開を実施している。

平成 23 年（2011 年）

レプソルド子午儀が、国の重要文化財に指定される。

平成 23 年（2011 年）見学コースの整備が行われ、6 月より、月 4 回のガイドツアーを

実施している。

●今後の予定

平成 24 年（2012 年）

- 7 月 天文情報専門委員会
- 9 月 「国立天文台博物館（仮称）収蔵品データベース」（電子版）作成開始
- 9 月 第 1 回博物館基本構想委員会
- 10 月 職員懇談会（予定）
- 11 月 3 日・4 日 「国立天文台博物館（仮称）構想シンポジウム」の開催
- 11 月 第 2 回博物館基本構想委員会
- 11 月 プロジェクトウイーク

平成 25 年（2013 年）

- 1 月 職員懇談会（予定）
- 1 月 研究計画委員会
- 2 月 第 3 回博物館基本構想委員会
- 3 月 「国立天文台博物館（仮称）収蔵品データベース」（β 版）公開開始
- 4 月 国立天文台博物館（仮称）発足予定